

日本語自然会話の話者間反復における 「反復発話」の統語的分析

— 格成分が関わる場合 —

常 艶麗*・有元 光彦**

A Syntactic analysis on 'Repeating utterances' between the Speakers
in Natural Japanese Conversation
— Focusing on Case Constituents —

CHANG Yanli*, ARIMOTO Mitsuhiro**

(Received September 22, 2022)

日本語の自然会話においては様々な反復現象が見られるが、中でもある話者の発話末尾文にある要素が次の話者の発話冒頭文に現れているような反復現象が観察される。本稿では、そのような会話における反復を「話者間反復」と呼び、話者間反復における「反復発話」の統語的な分析を行う。従来の反復現象に関する研究は、主に反復の機能を探究するものであった。しかし、なぜ話者は反復する要素を特定の箇所置くのか、どのような箇所置いて反復をするのかという問題について、未解明である。本稿では、統語的な観点から、反復発話の出現位置について分析する。その際、反復発話に格成分が関わる場合に焦点を置く。その結果、反復する要素は反復発話の文頭により近い位置を指向していることを明らかにした。また、話者間反復が起こる際に、話者間反復の関係にある要素の統語的な近接性の度合いが高いことが判明した。

1. はじめに

日本語自然会話においては、以下のような反復現象が見られる。

- (1) A: わかんない、見なきゃ、なんかあれに載ってないかな、ホームページ
B: ホームページか掲示板にも書いてあると思うよ、TOEICのなんか要項? 要項っていうか

話者Aの発話の末尾にある「ホームページ」が話者Bの発話の冒頭に現れている(下線部参照)。これは話者間で起こる反復であり、話者Aの発話にすぐ続いて、当該要素が反復されている。本稿では、このような反復現象を「話者間反復」と呼ぶ。

常(2021)では、格成分が関わる場合、先行発話のどの要素が選択されて話者間反復が起こるのかという問題を統語的な観点から解明した。すなわち、(1)の話者間反復では、話者Aの発話のうち、なぜ「ホームペー

ジ」が選ばれて反復されるのかという問題である。分析の結果、文末により近い要素が選ばれて反復されることが明らかになった。しかし一方で、話者Bの発話における「ホームページ」の統語的な位置の詳細に関しては、現時点まで検討できていない。「話者間反復」の定義から考えると、「ホームページ」は話者Bの発話の冒頭に現れることは当然であるが、話者Bの発話文の中での構造的な問題も、話者間反復には大きく関わっているようである。そこで、(1)の話者Bの発話では、「ホームページ」は「文頭により近い位置を指向している」のではないかという仮説を立てている。本稿では、この仮説を検証していく。

2. 先行研究

日本語の会話における反復現象に関する先行研究として、中田(1992)、田中(1997)、松田(1998)、杉山(1998)、杉山(2002)、岡部(2003)、メイナード(2005)、伝(2007)、竹田(2017)が挙げられる。

* 河南大学 中国河南省 changyanliscyl@outlook.com ** 山口大学 国際総合科学部 arimoto@yamaguchi-u.ac.jp

これらの先行研究について総じて言えば、多種多様な反復現象が区別されないまま研究され、反復の機能面に関する研究が多い。その代表的なものを挙げると、中田（1992：300）では、繰り返すという行為が会話の方策として果たす機能を種類別に記述した上で、「くり返しのタイプ（誰の発話をくり返すか、出現のタイミング、再現の形状）によって用いられる目的や表現効果にも違いがある」と述べている。しかし、機能的な研究においては、分類の域を超えておらず、また例外も多々見られるため、厳密で十分な記述が得られているわけではないと考える。

一方、機能的な研究を補うものとして、統語的な観点からの研究があるが、今のところ常（2021、2022a、2022b）だけである。常（2021：133）は、「話者間反復はそれを含む文の統語構造に依存する」と述べている。本稿では、厳密な記述を目指すため、常（2021、2022a、2022b）の考え方に基づいて、議論を展開していく。

3. 本稿の立場

話者間反復の定義は、以下の通り常（2022b：17）から引用する。

（2）話者間反復の定義：

話者Aの発話の末尾文 S_1 に含まれるXと、話者Bの発話の冒頭文 S_2 に含まれるYが、同じあるいは類似している場合、XとYは話者間反復の関係にある。

A : (…) $\boxed{S_1 \dots X \dots}$
 B : $\boxed{S_2 \dots Y \dots}$ (…)

XとYは単語である。「XとYが同じ」というのは、両者の形式が同一であることを示している。一方、「XとYが類似している」というのは、両者の形式の一部が同一であることを示している。

S_1 と S_2 は文であり、単文や複文が含まれる。また、本稿では、 S_2 を「反復発話」と呼ぶ。通常、発話にはいくつかの文が含まれている。しかし、ある話者の発話には一文しかない場合がある。この場合、その一文が S_1 あるいは S_2 となる。 S_1 と S_2 の間に感動詞「いや」や接続詞「だって」が挟まれているような場合があるが、本稿では感動詞や接続詞は単独の文あるいは文（ S_1 、 S_2 ）の一部とは見なさないため、対象外とする。

また、「うん」などの感動詞、「なんか」などの言いよどみ、オウム返し、単純な聞き返しのような相づち的な発話の反復は話者間反復とは見なさない。

なお、記述を簡潔にするために、以下は「話者間反復」を単に「反復」と表現する。従って、（2）のXは

「反復される要素」、Yは「反復する要素」と呼ぶことにする。

4. 会話データについて

本稿では、2018年6月～2019年3月に行った、日本語母語話者による会話調査で収集した7本の会話データを利用する。会話調査は、大学生（10代後半～20代）の友人同士の二者間、男性ペア3組と女性ペア4組でそれぞれ行った。被調査者の名前はアルファベットA～Nに書き換える。調査時間は各30分間である。会話のテーマは指示していない（自由会話である）。また、調査者（筆者）は調査時には同席していない。録音はiPhone 7 plusのアプリ「ボイスメモ」を使用している。

本稿では、会話調査による会話データを次のような書式で記す。

010056 B 短パンはちょっと良くないかも（笑）
 010057 A そうなん？

初頭にある6桁の数字は、個々の会話データのIDである。その次にあるアルファベットは話者記号である。その次に、会話データを漢字仮名交じりで表記している。

また、会話データを文字化・分析する際には、次のような記号を使用する。

- , [全角] ごく短いポーズを示す。
- 音声の伸ばしを表している。
- ? [全角] 直前部分が上昇調の抑揚で発話されていることを示す。
- () [半角] 短く、特別な意味を持たない相づちは、()にくくる。
- (笑) 笑い声を表す。
- 「人名」 被験者のプライバシーを保護するために明記できない氏名を示す。また、各データでの出現順番によって通し番号をつける（例えば、「人名1」、「人名2」など）。
- $\boxed{\quad}$ 話者間反復の関係にある要素Yを含んでいる文（ S_2 を指す）。
- 話者間反復の関係にある要素（XとYを指す）。
- S 文
- N 名詞
- V 動詞
- P 後置詞（格助詞、副助詞、接続助詞）
- Adv 副詞
- FP 終助詞

CPL	コピュラ
NP	名詞句
VP	動詞句
CP	従属節

5. 分析

本節では、代表的な会話データのみを挙げ、反復発話S₂の統語構造を分析することで、反復する要素Yの出現位置を観察していく。

まず、(3)を見られたい。

- (3) 010275 B 英語, 英語なー, TOEIC受ける?
 010276 A 受けるよ
 010277 B いつ受ける?
 010278 A 冬
 010279 B 冬, 冬にあるん?
 010280 A わかんない, 見なきゃ, なんかあれに載ってないかな, ホームページ
 010281 B ホームページか掲示板にも書いてあると思うよ, TOEICのなんか要項? 要項っていうか

(3)では、010280の発話のうち、「ホームページ」が話者Bに反復されている。まず、話者Bの発話「ホームページか掲示板にも書いてあると思うよ」の統語構造を(4)のように示す。統語構造を示すには、句構造を角括弧でくくる方法を利用する。各統語範疇を左下付きで表示する。

- (4) [_{S2} [_{CP} [_{VP1} [_{NP1} [_{NP2} [_Nホームページ] [_Pか]]] [_N掲示板] [_Pにも]] [_V書いてある]] [_Pと]] [_S [_{VP2} [_V思う]] [_{FP}よ]]]

(4)を見ると、「ホームページ」と同じNのラベリングがされているものは、他にも「掲示板」があることが分かる。この2つのNの統語的な位置を比較すると、「ホームページ」は「掲示板」の左側にある。すなわち、S₂の文中に2つの名詞がある場合、反復される要素は相対的に左に位置していることになる。言い方を変えるならば、話者Bの脳/心 (brain/mind) 内では、「ホームページ」を相対的に左にあるNに置いて反復するという計算がなされていると考えられる。

次に、(5)によって検証する。

- (5) 060014 L そうそうそうそうそう, どうするん今日
 060015 K 今日俺ねほんとはね, バイトだったんよ
 060016 L うん

- 060017 K けどなんか, その飯食いよる時に(うん) 韓国の人にご飯誘われて
 060018 L うん
 060019 K 正直なんか, 最近自分忙しくて(うん) 今日バイトする気分でもなかったけん(うんうん), まあちょっと仮病じゃないけど使って休んだんやけどなんか罪悪感があるんよ
 060020 L ふんふん(笑)
 060021 K それもそれでああ, (人名3)が(うん) なんか多分ストレスが溜まってるかなと思って

…… (中略)

- 060027 K でもそんなん(人名3)に言えんけさ
 060028 L 言えんね
 060029 K まあ, 別に, 今日はやっぱ休んで(うんうんうん), 韓国の人たちとご飯食べて, うん(うん), 最近結構勉強俺頑張るとるって, 自分で言うのもあれやけど(うんうんうん), ちゃんとしとって
 060030 L 中国語? とくに
 060031 K 中国語と経済のやつとか, あとなんか, 人間関係とかの, 疲れたけんさ, まあ, 疲れたっていうか, なんか, 最近どうしとったらいいんかになって, 自分どうしたらいいんかになって思っ

(5)では、2箇所反復が起こっている。まず、060014の発話のうち、「今日」が話者Kに反復されている。話者Kの発話「今日俺ねほんとはね, バイトだったんよ」の統語構造を次のように示す。

- (6) [_{S2} [_{NP1} [_{NP2} [_N今日]]] [_{NP3} [_N俺] [_{FP}ね] [_{Adv}ほん]と] [_Pは] [_{FP}ね]] [_Nバイト]] [_{CPL}だった] [_{FP}んよ]]]

(6)を見ると、「今日」と同じNのラベリングがされているものは、他にも「俺」「バイト」がある。この3つのNの位置を比較すると、「今日」は「俺」「バイト」の左側にある。すなわち、「今日」がS₂の相対的に左にある。話者Kが「今日」を相対的に左にあるNに置いて反復しているのである。

一方、(5)の会話データではもう1箇所反復が観察される。すなわち、060030の発話のうち、「中国語」が話者Kによって反復されている。話者Kの発話「中国語と経済のやつとか, あと人間関係とかの, 疲れたけんさ」の統語構造を次に示す。

(7) [_{S2} [_{NP1} [_{NP2} [_{NP3} [_{NP4} [_{NP5} [_N中国語] [_Pと]]] [_{NP6} [_{NP7} [_N経済] [_Pの]] [_Nやつ]]] [_Pとか]]] [_{NP8} [_{NP9} [_{Adv}あと] [_N人間関係]] [_Pとかの]]] [_Pの]] [_{VP} [_V疲れた] [_{FP}けんさ]]]

(7)を見ると、「中国語」と同じNのラベリングがされているものは、他にも「経済」「やつ」「人間関係」がある。この4つのNの位置を比較すると、「中国語」は「経済」「やつ」「人間関係」の左側にある。すなわち、「中国語」がS₂の相対的に左にある。話者Kが「中国語」を相対的に左にあるNに置いて反復するのである。

次の会話データを見られたい。

- (8) 010073 A まあねー、タイトスカートよりいいと思うわ
 010074 B 私はあんなん履きたくないわ、絶対嫌だ
 010075 A ねー、なんかちょっとさ、あのなに、バーコードが取れてるときとか取りに行かなきゃいけないじゃん
 010076 B うん
 010077 A そういうときとかもう、ズボンがいいなーって思う
 010078 B ああ、あれ歩き辛い？
 010079 A 歩き辛っていうかなんかね、あんま、うーん、人目をはばかり
 010080 B はばかり、へーそうなんだ、ゆめタウン、もうちょっとゆったりしてるから
 010081 A スカートの？
 010082 B なんか、スカートに見えるズボン? なんかちょっと、分かれてる股が

(8)では、010081の発話のうち、「スカート」が話者Bに反復されている。話者Bの発話「スカートに見えるズボン」の統語構造を次に示す。

(9) [_{S2} [_{NP1} [_{CP} [_{VP} [_{NP2} [_Nスカート] [_Pに]]] [_V見える]]] [_Nズボン]]]

(9)から見ると、「スカート」と同じNのラベリングがされているものは、他にも「ズボン」がある。この2つのNの位置を比較すると、「スカート」が「ズボン」の左側にある。すなわち、「スカート」がS₂の相対的に左にある。話者Bが「スカート」を相対的に左にあるNに置いて反復するのである。

次に、(10)について述べたい。

- (10) 040426 H インスタにあげて匂わせな、そういうのは
 040427 G 匂わせたいところだが、あれなんよ
 040428 H (笑)
 040429 G そう、まあ後で言うわ(笑)
 040430 H (笑) はい、めっちゃ響いた、笑い声が、え、久しぶりに人と話したからやった、やば、こわいな(笑)
 040431 G 楽しかった
 040432 H バイトしかしてない、大阪旅行が終わったらマジで楽しみがないなー、もう学校始まるじゃん
 040433 G ゴールデンウイークなんかせんのか?
 040434 H あ、ゴールデンウイークはね、福岡に帰る、ちょっとだけだけど、たぶん2、3日ぐらいいしか帰らんとと思うけど

(10)では、040433の発話のうち、「ゴールデンウイーク」が話者Hに反復されている。話者Hの発話「ゴールデンウイークはね、福岡に帰る」の統語構造を次に示す。

(11) [_{S2} [_{VP} [_{NP1} [_Nゴールデンウイーク] [_Pは] [_{FP}ね]]] [_{NP2} [_N福岡] [_Pに]]] [_V帰る]]]

(11)を見ると、「ゴールデンウイーク」と同じNのラベリングがされているものは、他にも「福岡」がある。この2つのNの位置を比較すると、「ゴールデンウイーク」が「福岡」の左側にある。話者Hが「ゴールデンウイーク」を相対的に左にあるNに置いて反復するのである。

次に、(12)について説明していく。

- (12) 070268 M なに、あーそういえばクリスマスやねみたいな
 070269 N そうそう、俺普通にバイトやみたいな、(笑)の人やん、やけちょっと
 070270 M (笑) え、でも(人名9)ちゃんとか?
 070271 N (人名9)ちゃんそうやね、彼氏できたよね、たしか
 070272 M うん、たぶんたぶん
 070273 N いやいや、クリスマスは?
 070274 M うわー、クリスマス一人かな(笑)

(12) では、070273の発話のうち、「クリスマス」が話者Mに反復されている。話者Mの発話「クリスマス一人かな」の統語構造を次に示す。

(13) [S₂ [NP₁ [NP₂ [Nクリスマス]]] [N一人]] [FPかな]]

(13) を見ると、「クリスマス」と同じNのラベリングがされているものは、他にも「一人」がある。この2つのNの位置を比較すると、「クリスマス」が「一人」の左側にある。話者Mが「クリスマス」を相対的に左にあるNに置いて反復するのである。

最後に、(14) を見られたい。

- (14) 060126 L (人名6)さん？(人名6)さんの写真見て、なんかすごいねウユニ塩湖みたいなさ
- 060127 K あんさ、インスタのやつやろ？
- 060128 L そう、あんなあるんやね中国、チベットのほうかいね、たしか
- 060129 K たぶんそうやろう、確かに羊とかね(うん)、ふつうに車とかでドドド(笑)
- 060130 L そうそう、すげえって思って、あんなあるんや、なんも知らんなって思った
- 060131 K うんうん、日本で考えられんもんね
- 060132 L そうそう、日本で考えられん、でももしかしたら日本でもあるんかもしれないって言う、だから日本のことも知らんし、観光地とか、海外のこととかなおさら、中国で？みたいな
- 060133 K 中国とか異国やもんね、ラインもそういうのも制御されとるし

(14) では、060132の発話のうち、「中国」が話者Kに反復されている。話者Kの発話「中国とか異国やもんね」の統語構造を次に示す。

(15) [S₂ [NP₁ [NP₂ [N中国]]] [Pとか]] [N異国]] [FPやもんね]]

(15) を見ると、「中国」と同じNのラベリングがされているものは、他にも「異国」がある。この2つのNの位置を比較すると、「中国」が「異国」の左側にある。話者Kが「中国」を相対的に左にあるNに置いて反復するのである。

6. まとめ

以上では、反復する要素は反復発話での出現位置を観察した。その結果をまとめてみると、反復する要素Yが反復発話S₂の相対的に左に現れる傾向が見られる。「相対的に左に現れる」というのは、S₂の文頭により近い。すなわち、反復する要素Yは「S₂の文頭により近い位置を指向している」と言えるだろう。当初の話者間反復の定義では、Yはそれを含む冒頭文にあることしか示していなかったが、本稿の分析によって、より厳密な指向性を仮定できたことになるだろう。

さらに、S₂の文頭に近いということは、前の話者の発話末尾にも近くなる。常(2021)では、S₁におけるXが統語的に右寄りであることを示したが、本稿では、S₂におけるYが統語的に左寄りであることを示したことになる。すなわち、話者間反復が起こる際には、XとYの統語的な近接性の度合いが高くなっていると言えよう。さらに言い換えれば、話者Bは、話者Aの発話後に可能な限り早く反復しようとしていることになる。ここには、話者Aが、話者Bの反復を促す(話者Bが反復しやすい)ために、可能な限り遅くXを発話するようにする何らかの仕組みが隠れているのかもしれない。

7. 今後の課題

本稿では、格成分が関わる場合の話者間反復において、反復する要素の統語的位置を明らかにし、一つの仮説を提示した。しかし、未解決の問題も残っている。

最も大きな問題は、XとYの間に現れる感動詞や接続詞の存在である。本稿では、これらを対象外としたが、XとYの近接性を提唱する以上、これらに対する厳密な分析が必須である。

また、反復をする話者がどのような発話意図を持って、どのような意味を表出したいのかという問題に関わるかもしれない。ひょっとしたら、会話の展開にも関わると予測している。

さらに、話者間反復における反復発話は発話者の認知プロセスにも関与するかもしれない。この点については、本稿でも、話者Bの脳/心内の計算という観点からの考察も若干加えているが、厳密な記述ではない。

本稿では、収集した会話データに現れた話者間反復のみを分析対象としている。従って、今後収集する会話データの中には、言うまでもなく例外も出てくること予想されている。現時点では、統語的な観点からしか考察していないが、例外が出てくる場合、先行研究のような機能的な観点、または形態的な観点からの考察も考えられる。

いずれも今後の課題である。会話データの全体量が不足しているため、今後、さらに会話データを増やし、検

証を行う必要がある。

8. おわりに

本稿では、日本語自然会話で観察される反復現象の一つである話者間反復における反復発話を対象として、反復する要素の出現位置について解明を試みた。その結果、反復する要素は反復発話の文頭により近い位置を指向していることが判明した。先行研究の示す意味や機能の観点が全く関連しないとは言えないが、本稿では話者間反復に関する統語的なアプローチを試みることで、新たな一歩を踏み出したのではないかと考える。それゆえ非常に意義があるものであると考える。

参考文献

- 岡部悦子 (2003) 「課題解決場面における「くり返し」」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』第16号 pp.97-116
- 柴谷方良・影山太郎・田守育啓 (1982) 『言語の構造—理論と分析—意味・統語論』くろしお出版
- 常艶麗 (2021) 「日本語自然会話における「話者間反復」についての統語的分析の試み—格成分が関わる場合を対象として—」『比較文化研究』第145号 日本比較文化学会 pp.121-136
- 常艶麗 (2022a) 「日本語自然会話における「話者間反復」について—名詞が反復される場合を対象として—」『東アジア研究』20号 山口大学大学院東アジア研究科 pp.90-120

- 常艶麗 (2022b) 『日本語自然会話における「話者間反復」に関する研究』山口大学大学院東アジア研究科博士学位論文
- 杉山ますよ (1998) 「進行役とゲストの発話に見られる繰り返し」『言語文化と日本語教育』第16号 pp.46-57
- 杉山ますよ (2002) 「くり返しの形状・分布と機能」『別科論集』第4号 大東文化大学 pp.67-87
- 竹田らら (2017) 「どの場面で、誰が、何を、何のために「繰り返し」のか—二種類のジャンルにおける「反復」の機能とそれがもたらす協調性—」『日本語学』36(4) 明治書院 pp.70-80
- 田中妙子 (1997) 「会話における〈くりかえし〉—テレビ番組を資料として—」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』第9号 pp.47-67
- 伝康晴 (2007) 「発話冒頭付近での語句の繰り返しの機能」串田秀也ほか [編] 『時間の中の文と発話』ひつじ書房 pp.103-133
- 中田智子 (1992) 「会話の方策としてのくり返し」国立国語研究所 [編] 『国立国語研究所研究報告集13』秀英出版 pp.267-302
- 松田文子 (1998) 「日常談話における反復表現の機能に関する一考察」『言語文化と日本語教育』第16号 pp.58-69
- メイナード、泉子・K (2005) 『談話表現ハンドブック』くろしお出版